

《 目 次 》

はじめに

柏市立教育研究所長 内田 守

I	研究テーマ及び研究計画	1
1	研究テーマ	1
2	研究目標	1
3	研究組織	2
4	研究内容と方法	2
5	研究計画	3
6	研究報告	3
II	運動能力調査	4
1	調査対象	4
2	運動能力測定方法	4
III	結果と考察	5
1	運動能力測定値の分布	5
2	運動能力の発達傾向	6
	運動能力判定基準表	8
IV	家庭生活と運動能力発達の比較	9
V	平日の運動時間と生活習慣の関連	10
VI	「各園の実践報告」～幼稚園～	11
VII	「各園の実践報告」～保育園～	45
VIII	今年度の活動報告	70
IX	資料	
	資料1「家庭生活調査票」	71
	資料2「園生活調査票」	72

「研究のあゆみ」に寄せて 聖徳大学大学院教授 太田 繁

はじめに

「こころ からだ はずむ 柏っ子」 これは関係者にとっては、すでに馴染みのあるキャッチフレーズともなっている本共同研究のテーマです。私はこのテーマがとても気に入っています。それは、こころとからだを目一杯はたらかせて、笑顔もいっぱい成長していく子どもたちの姿が目に浮かぶからです。こころもからだも楽しくはずんでいる柏の子どもたちを思い描くとき、大人たちにも希望があふれてきます。副題には「みんなで 運動遊びが 大好きな子どもを 育てよう」とありますが、この「みんなで」という連帯が魅力です。本共同研究には、柏市内のすべての幼稚園・保育園・認定こども園が参加しています。以前から全国的にもここまで連携の進んだ取り組みは珍しいと言われてきましたが、現時点でも同じ評価をいただいていることは、この取り組みがいかに難しいことであり、他に誇れることであるかの証といえると思います。実に1万3千人を超える子どもたちが在園している状況を考えると、その保護者やご家族、先生方をはじめとする関係者を合わせると5万人にも及ぶのではないかと思います。その「みんなで」このテーマを共有し、研究実践していけましたら、柏市に育つ子どもたちの大きな力となるに違いありません。

さて、本研究の内容と意義について触れたいと思います。言うまでもなく子どもの健やかな成長のためには「知・徳・体」のバランスの良い教育の営みが欠かせませんが、時代とともに社会情勢や生活環境が変化し、必然的にバランスが失われていきます。交通の整備がなく子どもですら労働力の担い手となった昔と社会環境が便利な方向に整備され、安全優先の考えから遊具が次々撤去されている現在と比べると子どもの体力や運動量の低下を否定する要素が見当たりません。さらに高度情報化社会が拍車をかけており、逆戻りは考えられません。だからこそ、みんなで意識して、意図的・計画的に失われたバランスを取り戻す地道な取り組みを続けることに大きな意義があると考えます。

平成22年からスタートした「こころ からだ はずむ 柏っ子」をテーマとする研究は、毎年関係の皆様のご知恵と工夫が加えられ充実しながら貴重なデータと実践が蓄積されています。6年目を迎えた今年度は10年目を目指した再スタートと位置づけ、運動遊びの充実のための環境設定やカリキュラムの見直し、並びに家庭への啓発等に力を入れてまいりました。それらの研究成果をこのような冊子にまとめることができました。今後もさらに「みんなの力」で、研究を推進してまいります。

最後になりましたが、きめ細かくご指導いただきました聖徳大学大学院教授 太田繁先生、ご協力いただきました市内の幼稚園、保育園、認定こども園の皆様、並びに関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

柏市立教育研究所 所長 内 田 守